おためし暮らしで本道の冬を体験
町田市のご夫婦「白老でもいいか…」➡「白老いいんじゃない！」
短期滞在型生活体験モニター事業

広報編集室 げんきまち通信

同事業を利用して２月４日～３月５日の約１カ月間、白老町に滞在した東京都町田市の村山豊さん(65)、恵子さん(66)ご夫婦。当初予定だった伊達市への滞在希望がコロナ禍もありかなわず、白老町での生活を体験しました。「緯度的に近いから白老でもいいかなと思っていましたが、今は白老でなければだめ、という気持ちになりました」と笑顔で話し、「移住の可能性は大です」とひとまず東京に戻りました。

同事業はしらおい移住・滞在交流促進協議会（事務局・町役場）が平成19（2007）年度から運営しています。全国の方にインターネット（「しらおい町移住ポータルサイト」）などで白老の移住体験をPRして、実際に短期で体験滞在（温泉付き戸建て）をしてもらい、町の雰囲気や暮らしやすさ、自然環境を確かめてもらうのが目的です。令和３（2021）年度は道外３組、道内１組と４組８人（すべて夫婦）が利用しました。

北海道の冬を体験したい

機械設計業を自営していた村山さん、元公務員の恵子さんは、第二の人生を模索しようと昨年３月、「少し仕事を離れて、落ち着ける場所を」とキャンピングカーで１年近く日本巡りを敢行。「移住先として北海道が頭にありましたが、冬の一番厳しい時季の生活を体験しておきたい」と、今冬におためし暮らしを利用。同事業でこの時季の利用は初めてでした。

白老は「落ち着きます」と実感

20歳のころ、日高の同じ牧場でアルバイトをしていたお二人が、その後東京で偶然再会する運命的な出会いから結婚。今でも仲睦まじく価値観も一緒。厳冬、さらにドカ雪を経験する中、「白老はとにかく落ち着きます。歩いて行ける範囲に店もあるし、土地の広さ、自然の豊かさも気に入りました」「観光スポットには全然行っていないのよね。家周辺の散歩とか生活用品の買い物とか、自宅にこもっての生活がすてき」と、ぼたん雪が舞う窓からの風景をみつめながら移住の決心を静かに語っていました。バイクが趣味の村山さん。「白老に住んだら小さいながらライダーハウスをやりたいですね」と将来を話していました。

地域おこし協力隊通信

安田裕太郎さん(27)
観光振興担当(１年目)

古い建物の価値を認めて良さを生かす「リノベーション」のカッコよさに衝撃を受けたのは10年前。そこから興味は、建物のカッコ良さより中身や運営へと移っていきました。

気づくといわゆる「まちづくり」がおもしろそうだと考えるようになっていました。

大学では「まちづくりしながら、中心にシャッター商店街でお店を５つ経営するNPOを運営。並行して自分でプロジェクトを企画し、いくつかの民泊やゲストハウスを中心に体験型の観光コンテンツ。今考えるとダンだけでも、ベンチャー企業で働いていました。

建物のカッコ良さから中身や運営に惹かれ、そしてまちづくりへ

「どこかに激務な日々だったし、やれるかなと思います。「まちづくり」は、ほとんど使わない言葉なんだ。「地域活性化」と言えばなんか意味ちがう意味なんだ。

「まちづくりしながら、新たな自然と共生する暮らしを目指し、豊かな自然と共生する暮らしを目指し、豊かな自然と共生する暮らしを目指し、豊か